

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	零細漁村の女性たちを中心に、キリンサイ養殖事業と収穫したキリンサイを利用した生産作業を通して、健康面を重視し環境に優しい生活モデルをドンブ県の全住民に提案し、それを具現化する。
(2) 事業の必要性 (背景)	西ヌサ・トゥンガラ州ドンブ県は、キリンサイの養殖、トウモロコシの増産、養牛業を優先課題に掲げている。しかし、異常気象による洪水、森林伐採、海水と海岸の汚染が深刻である。本会は、N連無償資金協力「零細漁民のための持続可能な生活向上プログラム」を2期実施して、洪水被害や感染症アイスアイスへの対策を講じ、同県漁業局から評価されてきた。2016年9月からは、N連「海藻養殖事業を基盤とする零細漁村の女性による自然環境に優しい保健衛生を考慮した新生活スタイル構築プログラム(第1期) (ELWIS)」を開始し、本年9月完了予定である。環境衛生に関する意識が低く、住環境・自然環境の悪化が深刻な同県ケンボ郡トロカロ村とソロ村に於いて、2村の女性グループを組織し、キリンサイを利用した健康に良い食品加工と石鹼・ローションの生産を始め、既にオリジナル食品15種類、石鹼・ローション8種類が誕生している。また、日常飲食していたバクソ(加工済肉団子)や安価なパック飲料水が、人体に有害であることにELWISを通して女性メンバーが気付くなど、保健衛生への意識が芽生えはじめている。こうした状況の下、共同作業を通じて女性たちの意識や組織力をさらに高め、食生活の改善と村の全住民に対して、健康や環境への意識化を目指したアドボカシーと教育活動を展開する必要がある。中長期的な上位目標に向かって、キリンサイ養殖事業の拡大とキリンサイを活用した健康志向で環境に優しい生活モデルの具現化は、SDGsの目標(ゴール)1, 2, 3, 5, 6, 12, 13, 14, に沿った試みである。
(3) 事業内容	ELWISで養成を受けた2村の女性グループが、石鹼づくり、食品加工、海藻養殖、組織づくり、マーケティングの各専門家と共に、ケンボ郡でのキリンサイ養殖事業の拡大とキリンサイの加工技術をさらに高め、村民への普及を目指す。スンバワ島に伝わる民間伝承薬ジャムウ(ジャムウは、インドネシアにヒンドゥー教が渡来した際、同時に入ってきたインド伝統医学アユルヴェーダの流れを汲む臨床経験豊富な安全性の高い民間伝承医療の総称である)を活用するため小規模薬草園を開園し、キリンサイ石鹼やローションの多様化を進める。キリンサイが、食品や必需品として村民の日常生活に取り入れられていくと共に、特定のグループによるキリンサイ食品の商品化にも努める。 また、女性グループが、ジェンダーやSDGsに関して学習し、日常生活に直結した環境衛生にかかわる諸問題の解決に長い時間をかけながら、地域社会や行政に提言できるようなる。将来、漁業局や保健局と協力し、上位目標を達成するため、下記を実施する。 (ア) 女性グループのグローバルな視点での組織強化と拡大 2村の女性グループが、インドネシア語の国連発行の資料を使い、豊富な経験を持つ本部専門家と共にジェンダー・SDGsについて学び、イスラム教圏に於けるジェンダーの概念を探求し、自分たちの役割を自覚する。また、女性メンバーを増員し組織の強化をはかる。 (イ) キリンサイを活用した石鹼・ローションの質的向上と多様化 色や香りのバリエーションを増やすため、2村の女性グループのため

	に、専門家による石鹼（3回各2日）、ジャムウ（2回各2日）に関するセミナーを実施。2村に小規模薬草園を開園し、住民の参加を呼びかける。また、女性メンバーの代表とスタッフ数名が、スマラン、ジャムウ研究資料館で研修を受ける。オリジナル石鹼等が、村内で認知され、村人の日常生活に取り入れられることを目指す。 （ウ）キリンサイの調理法と加工食品の多様化と普及 2村の女性グループが、専門家と共にキリンサイを利用した調理経験を蓄積し、その効果、メリットを村人が共有し、キリンサイが日常の食卓の献立として普及する。また、代表的調理法を解説したレシピハンドブックを作成する。 （エ）キリンサイを利用した加工食品の商品化 女性グループ有志が、専門家と共に、キリンサイ加工食品の中から商品化に適した数種類、特に同国の食卓に欠かせないクルブック（えびせん）に代わるような製品を選別し、近隣地域向けに商品化する。包装、ラベル、梱包方法、販路開拓に関する研究、セミナーを開催する。 （オ）キリンサイ養殖に関わる世帯数の増加 キリンサイ養殖が、村民の経済的社会的メリットになることを広報活動やセミナーを通して伝え、村民を対象とする養殖方法や品質管理に関するセミナーを開催する。（3回1日） （カ）女性グループの定期ミーティングの実施 毎週2回、スタッフと女性グループがワークショップ（72回各1日）を開き試作、学習する。養殖従事者（男性）一世帯毎に収穫後、通常の種200kgを450kgまで増大し、キリンサイの増産と養殖従事世帯の増加に努める。 （キ）漁業局とのキリンサイ養殖事業に関する協力 ドンブ県に支給される中央政府並びに州政府からのキリンサイ養殖事業用予算の一部を、本案件事業地域に還元できるよう情報の共有と定期会合を開く。（毎月1回）キリンサイ養殖を開始したいマングレワ郡ナガトゥンプ村での養殖事業を協力事業として開始し、専門家による必要な関連セミナー（1回3日）を開催する。 直接裨益人口は、トロカロ・ソロ村の女性グループ20人、養殖従事世帯30とその家族約200人、ナガトゥンプ村の養殖従事世帯者5とその家族30人並びにトロカロ・ソロの全村民約4,500人。間接裨益人口は、ケンプ郡の全住民約20,000人。
（4）持続発展性	キリンサイ養殖事業が、12ヶ月サイクルで継続し、ドンブ県全体の主要地場産業のひとつになる可能性は高い。また、女性を中心にキリンサイの活用範囲を広げ、健康管理・環境改善への意識の高い住民が増加すると共に、キリンサイの日常生活の中での普及が期待される。これは、零細漁民の罹患率を下げ、収入を上げることに繋がる。本案件実施後も事業効果が継続していくよう当団体が必要に応じフォローアップする。
（5）期待される成果と成果を測る指標	HEWISの事業終了までに、以下の成果達成を目指す。 成果1：女性グループが、定期ミーティングを利用して、ジェンダー、SDGsの理解を深め、女性グループのメンバーを増やす。

指標 1-1: 継続して学習会を持つ。(定期ミーティング実施記録)

指標 1-2: 村内の一般女性に呼びかけて会合を持つ。各村 30 人以上の一般女性の参加を目指す。(出席者名簿・世帯毎生活状況調査書)

成果 2: 女性グループが、キリンサイを活用した石鹼・ローションの質的向上と多様化を計り、村内で日常生活に浸透させる。

指標 2-1: 石鹼等の香り・色の多様化と石鹼の熟成、伝統薬ジャムウ、アロマ蒸留油の抽出方法を習得する。(実施記録・生産台帳)

指標 2-2: 村民の 25% (約 1,000 人) が、キリンサイ石鹼・ローションを日常使用するようになる (実態調査)

指標 2-3: ジャムウの活用と香りや色を抽出することを目的とした小規模薬草園を設置する。(開園に伴う実施記録)

成果 3: キリンサイが、村民の日常食として普及する。

指標 3-1: キリンサイを使った加工食品の質的向上と多様化が進む。(セミナーの実施記録・レシピの記録)

指標 3-2: キリンサイを使った献立が、日常の食卓に並ぶ。(実態調査)

指標 3-3: キリンサイの日常での普及のため代表的調理法を解説したレシピ・ハンドブックを作成する。

成果 4: キリンサイを使った加工食品を近隣地域向けに商品化する。

指標 4-1: 女性グループが、キリンサイ加工食品の中から商品化に適した数種類を選別する。(選別の根拠を記した報告書、実施記録)

指標 4-2: 女性グループが、商品化事業に参加希望の新メンバーを募り、養成する。(定期ミーティング実施記録・参加者名簿)

指標 4-3: 商品化事業により 1 年後、女性グループがグループの活動に使える基金として毎月 3,000,000 ルピア (約 3 万円) を確保出来るようになる。(収支決算表)

成果 5: キリンサイ養殖従事世帯が、各村 10 世帯、直接裨益者約 80 人増加する。

指標 5-1: 養殖管理、マーケティングに関するセミナーを実施すると共にパンフレットを作成し村内並びに近隣地域に配布する。(参加者名簿・報告書・パンフレット配布数)

指標 5-2: キリンサイ養殖事業を通して男女の協力体制を強化し、村内並びに家庭内で女性の意思決定への参画機会を増やす。(会合議事録・アンケート結果)

指標 5-3: 収穫毎 (45~60 日) に約 150 kg 増産、150~170 万ルピアの収入増となり、養殖従事者内の了解事項に基づき 1 世帯当たりの女性たちに毎月 800,000 ルピア (約 7,500 円) の副収入が得られる。(各戸会計簿)

成果 6: 漁業局と予算面での協力関係をさらに充実させる。

指標 6-1: キリンサイ養殖事業に於いて、ドンブ県漁業局がキリンサイ養殖事業に使える中央並びに州各政府からの財源を本事業の周期に合わせ有効に活用する。(打合せ回数とその会議議事録)